静岡新聞で学ぼう

静岡新聞

2022年12月1日朝刊東部版

記事を読んで、問いに答えましょう。

噴火で埋没 集落の暮らし

小山・須走 日向遺跡 遺構や遺物から探る

江戸時代の富士山宝永噴火で火山灰に埋まった遺構や遺物が発見された小山町須走地区の日向（ひなた）遺跡について学ぶ講座がこのほど、同地区で開かれた。地元住民らが出土した片口や鉄鍋を手に取り、当時の暮らしや地区の歴史に思いをはせた。

2019年と22年の試掘調査を担当した町生涯学習課の金子節郎さんが講師を務めた。建造物の柱や畑の畝、すり鉢や急須などが見つかった調査現場2カ所を訪ね、調査の経過や発掘時の状況を紹介した。

1707年の宝永噴火では集落全体が火山灰に埋まり、その上に街が形成されたと考えられている。金子さんは遺構が見つかった場所などから、噴火当時と現在の表通りの位置は変わらないことが判明したと説明した。出土品は来年度にも一般公開する。片口や急須の中にあった土を分析し当時の暮らしの様子を明らかにするという。

須走地区の歴史や文化を学ぶ講座「すばらしり隊」（須走まちづくり推進協議会主催）の特別編として行われた。

日向遺跡で出土した片口（右）に見入る参加者。左は鉄鍋＝小山町役場須走支所

①記事で紹介されている、火山灰に埋まってしまった日向遺跡はどこにありますか。

（　　）

②この遺跡の集落が火山灰に埋まってしまったのはなぜですか。

（　　）

③この遺跡から発掘された遺構や遺物を書き出しましょう。

（　　）

④この遺跡の集落が火山灰に埋まる前の様子は、どのような方法で想像しますか。記事を参考に30字以内で書きましょう（句読点を含みます）。

年　　組　　名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター　矢沢和宏

（小学校高学年～中学校／社会、総合）

静岡新聞で学ぼう

静岡新聞

2022年12月1日朝刊東部版

記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

噴火で埋没 集落の暮らし

小山・須走 日向遺跡 遺構や遺物から探る

江戸時代の富士山宝永噴火で火山灰に埋まった遺構や遺物が発見された小山町須走地区の日向（ひなた）遺跡について学ぶ講座がこのほど、同地区で開かれた。地元住民らが出土した片口や鉄鍋を手に取り、当時の暮らしや地区の歴史に思いをはせた。

2019年と22年の試掘調査を担当した町生涯学習課の金子節郎さんが講師を務めた。建造物の柱や畑の畝、すり鉢や急須などが見つかった調査現場2カ所を訪ね、調査の経過や発掘時の状況を紹介した。

1707年の宝永噴火では集落全体が火山灰に埋まり、その上に街が形成されたと考えられている。金子さんは遺構が見つかった場所などから、噴火当時と現在の表通りの位置は変わらないことが判明したと説明した。出土品は来年度にも一般公開する。片口や急須の中にあった土を分析し当時の暮らしの様子を明らかにするという。

須走地区の歴史や文化を学ぶ講座「すばらしり隊」（須走まちづくり推進協議会主催）の特別編として行われた。

日向遺跡で出土した片口（右）に見入る参加者。左は鉄鍋＝小山町役場須走支所

①記事で紹介されている、火山灰に埋まってしまった日向遺跡はどこにありますか。

（　　小山町須走地区　　）

②この遺跡の集落が火山灰に埋まってしまったのはなぜですか。

（　　江戸時代（1707年）の富士山宝永噴火　　）

③この遺跡から発掘された遺構や遺物を書き出しましょう。

（　　片口、鉄鍋、すり鉢、急須、建造物の柱、畑の畝　など　　）

④この遺跡の集落が火山灰に埋まる前の様子は、どのような方法で想像しますか。記事を参考に30字以内で書きましょう（句読点を含みます）。

片口や急須の中に残された土を分析し、当時の暮らしを想像する。（30字）

遺構が見つかった場所や遺構の様子を現在と比べて想像する。（28字）

など

年　　組　　名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター　矢沢和宏

（小学校高学年～中学校／社会、総合）